

症例基盤・問題解決型学修（実践）

責任者・コーディネーター	地域医療学分野 伊藤 智範 教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療学分野、医学教育学分野、総合診療医学分野、救急医学分野、腫瘍生物学研究部門、呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野、脳神経外科学講座、消化器内科消化管分野、血液腫瘍内科分野、看護学部看護専門基礎講座		
担当教員	伊藤 智範 教授、佐藤 洋一 教授、下沖 収 教授、遠藤 龍人 教授、前沢 千早 特任教授、田島 克巳 准教授、吉田 研二 講師、鈴木 泰 講師、相澤 純 特任講師、秋山 真親 助教、梁井 俊一 助教、鈴木 雄造 助教		
対象学年	2	区分・時間数	演習 18.0 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

代表的疾患を理解できるようになるために、病態生理を基礎医学から結び付けられるように、学習する。基礎医学に立脚して疾病を理解できるように、疾患の症状を病態生理や解剖学と結び付けて、確認をしながら演習を行う。
岩手医科大学基本症例集（オープン問題）を予習して、医学用語を理解することが必要である。

・教育成果（アウトカム）

臨床で遭遇する重要な疾患を理解するために、岩手医科大学基本症例集（オープン問題）に示されている疾患の概略を理解して、適切な医学用語を使って、コアカリの主要症候について自らの言葉で述べる
ことができる。
(ディプロマ・ポリシー：2, 6)

・到達目標（SBO）

1. 基礎医学に立脚して、臨床医学の基本である内科学の範囲を主体に、コアカりに挙げられている主要症候と代表的疾患の基本的な病態生理を、適切な医学用語を用いて、自らの言葉で説明できる。
2. 疾患に関する症候とその病態生理を述べるができる。
3. 実習予定の当直実習に関連して、プライマリーケアが重要な疾患を概説できる。
4. 学んだことを元に、実際の試験問題を自ら作成してみて、理解を深める。
5. プレゼンテーションのコツをつかみ、上手なスキルを学ぶ。

・ 講義日程

(矢) 西 102 1-B 講義室

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/6	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師	グループ成果物の発表 1 【西 1B・D 講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ (30~33 班、各 4~5 名) 熱、全身倦怠感、肥満・やせ、発疹のそれぞれの症例が混在した 4 群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。(8 グループ×15 分) → ベストプレゼンを選ぶ
9/13	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師	グループ成果物の発表 2 【西 1B・D 講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ (30~33 班、各 4~5 名) 胸痛、動悸、腰背部痛のそれぞれの症例が混在した 4 群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。(8 グループ×15 分) → ベストプレゼンを選ぶ
9/20	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 看護学部看護専門基礎講座	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 遠藤 龍人 教授	グループ成果物の発表 3 【西 1B・D 講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ (30~33 班、各 4~5 名) 黄疸、腹痛、食思 (欲) 不振、腹部膨隆 (腹水を含む)・腫瘤のそれぞれの症例が混在した 4 群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。(8 グループ×15 分) → ベストプレゼンを選ぶ
9/27	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授	グループ成果物の発表 4 【西 1B・D 講義室、マルチメディア

			医学教育学分野 医学教育学分野 脳神経外科学講座	田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 吉田 研二 講師	教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ（30～33班、各4～5名） 意識障害・失神、めまい、頭痛、運動麻痺・筋力低下のそれぞれの症例が混在した4群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。（8グループ×15分） → ベストプレゼンを選ぶ
10/4	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 消化器内科消化管分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 梁井 俊一 助教	グループ成果物の発表5 【西1B・D講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ（30～33班、各4～5名） 悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、便秘・下痢、吐血・下血のそれぞれの症例が混在した4群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。（8グループ×15分） → ベストプレゼンを選ぶ
10/11	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 血液腫瘍内科分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 鈴木 雄造 助教	グループ成果物の発表6 【西1B・D講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ（30～33班、各4～5名） 貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫のそれぞれの症例が混在した4群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。（8グループ×15分） → ベストプレゼンを選ぶ
10/18	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 呼・アレ・膠原病内科分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 秋山 真親 助教	グループ成果物の発表7 【西1B・D講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ（30～33班、各4～5名） 呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、胸水のそれぞれの症例が混在した4群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。

					う。(8グループ×15分) → ベストプレゼンを選ぶ
10/25	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 救急医学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 鈴木 泰 講師	グループ成果物の発表8 【西1B・D講義室、マルチメディア教室、ゼミナール室】 班は解剖実習班と同じ(30~33班、各4~5名) ショック、けいれん、チアノーゼ、脱水のそれぞれの症例が混在した4群に分かれてプレゼンと質疑応答をおこなう。(8グループ×15分) → ベストプレゼンを選ぶ
11/29	水	1	地域医療学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 前沢 千早 特任教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師	共同発表【西1B講義室】 班は解剖実習班と同じ(30~33班、各4~5名) 熱、全身倦怠感、肥満・やせ、発疹、胸痛、動悸、腰背部痛に関する発表を4班おこなう。 5肢択一問題を各2問作成して発表する。 プレゼンと問題に関して講評をもらう。
11/29	水	2	医学教育学分野 総合診療医学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 脳神経外科学講座 看護学部看護専門基礎講座	佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 吉田 研二 講師 遠藤 龍人 教授	共同発表【西1B講義室】 班は解剖実習班と同じ(30~33班、各4~5名) 黄疸、腹痛、食思(欲)不振、腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤、意識障害・失神、めまい、頭痛、運動麻痺・筋力低下に関する発表を4班おこなう。 プレゼンと問題に関して講評をもらう。
11/29	水	3	医学教育学分野 総合診療医学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師	共同発表【西1B講義室】 班は解剖実習班と同じ(30~33班、

			消化器内科消化管分野 血液腫瘍内科分野	梁井 俊一 助教 鈴木 雄造 助教	各 4～5 名) 悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、便秘・下痢、吐血・下血、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫に関する発表を 4 班おこなう。 プレゼンと問題に関して講評をもらう。
11/29	水	4	医学教育学分野 総合診療医学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 呼・アレ・膠原病内科分野 救急医学分野	佐藤 洋一 教授 下沖 収 教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 特任講師 秋山 真親 助教 鈴木 泰 講師	共同発表【西 1B 講義室】 班は解剖実習班と同じ (30～33 班、各 4～5 名) 呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、胸水、ショック、けいれん、チアノーゼ、脱水に関する発表を 4 班おこなう。 プレゼンと問題に関して講評をもらう。

・教科書・参考書等

岩手医科大学基本症例集（オープン問題）

・成績評価方法

作成したスライドを含めたポートフォリオ等提出物 2 割、発表会 3 割、後期進級試験期間に実施する客観試験 5 割として評価を行う。また、当直体験研修のレポートを評価に加味する。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

作成するスライドには、オリジナリティのある自ら創造したものを用いる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			